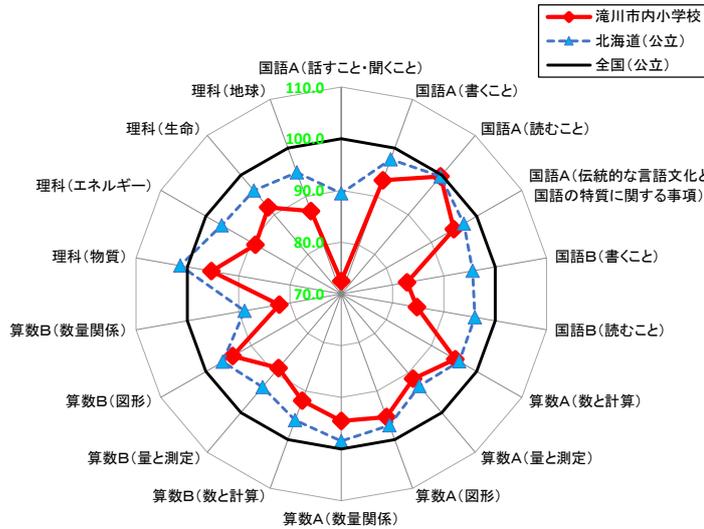


# 滝川市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6、児童数:315名)

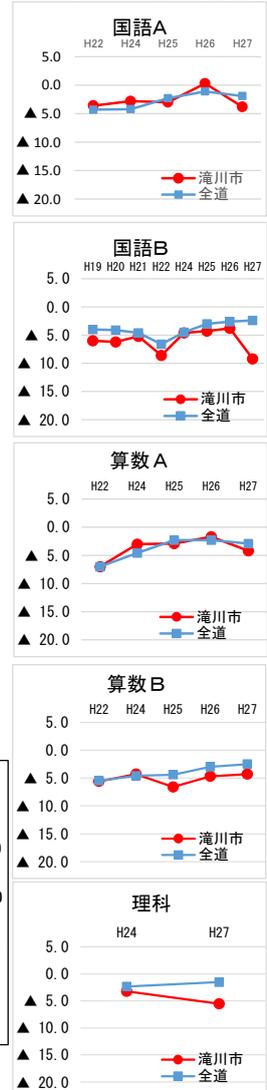
※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したもの

## 【教科全体の状況】

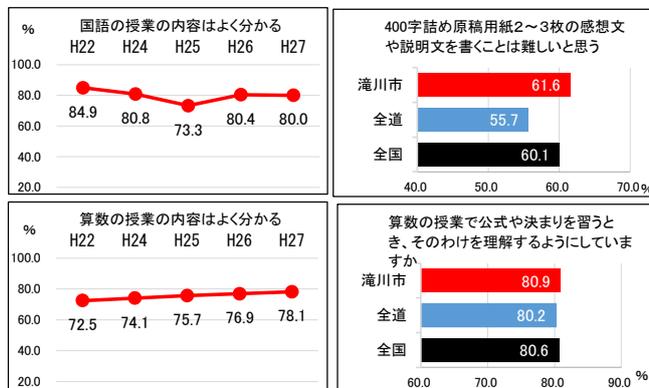
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



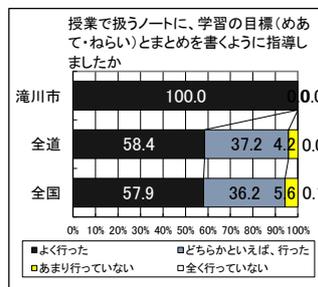
## 【平均正答率の全国との差の推移】



## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	○ 今年度は全教科の平均正答率が全国及び全道平均を下回った。領域別に見ると、国語Aの「話すこと・聞くこと」、国語Bの「書くこと」「読むこと」、算数B「領と測定」「数量関係」が大きな弱みとなっている。	○ 各学校のPDCAサイクルに沿った学力状況の分析と授業改善に取り組んだ効果は上がっているが、今後はさらに、児童の実態を綿密に分析し、苦手とする領域の力を高める手立てを講じる必要がある。
児童質問紙	○ 算数の授業内容がよく分かると回答した割合が上昇している。板書や発問の工夫や、思考する学習過程を設けた指導が生かされているものと考えられる。一方、国語では「書くこと」を苦手としている児童が多い実態がある。	
学校質問紙	○ 「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した」「学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底した」と答えた学校が多い。	

## 【滝川市の学力向上策】

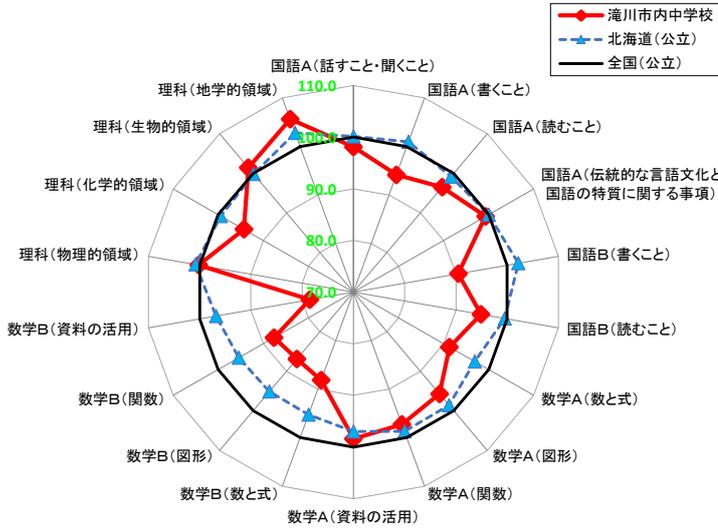
- ◎ 個に応じた学びの支援のため、退職人材活用事業や学びサポーターの配置など少人数指導体制を積極的に推進している。
- ◎ ティームティーチング指導や習熟度別指導を取り入れることにより、1人1人の児童が抱えている学習課題の解消を図っている。
- ◎ 本市独自に少人数学級実践事業を導入し、学習内容に深まりが出る小学3・4年生に対してきめ細やかな指導・支援を図っている。
- ◎ 小学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の大切さなど、保護者の協力を得ながら一層の取組を行っている。

# 滝川市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4、生徒数:332名)

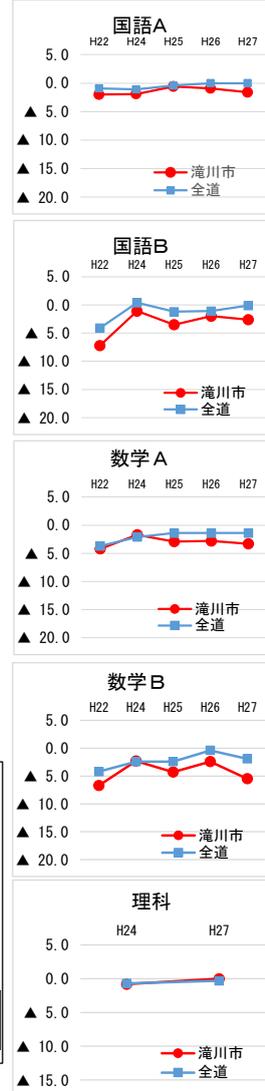
※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したもの

## 【教科全体の状況】

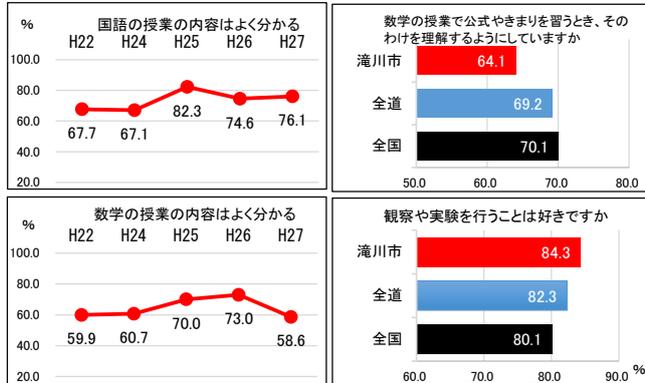
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



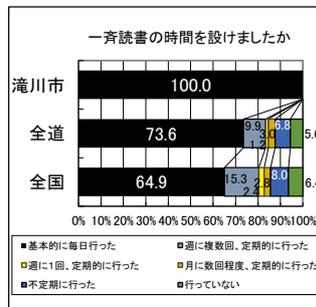
## 【平均正答率の全国との差の推移】



## 【生徒質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	○ 今年度は理科の平均正答率が全国平均と同程度、それ以外は下回った。領域別に見ると、国語A・Bの「書くこと」、数学Bの全領域、特に「資料の活用」が大きな弱みとなっている。	○ 各学校のPDCAサイクルに沿った学力状況の分析と授業改善に取り組んだ効果は上がっているが、今後はさらに、生徒の実態を綿密に分析し、苦手とする領域の力を高める手立てを講じる必要がある。
生徒質問紙	○ 国語の授業内容がよく分かると回答した割合が上昇している。言語活動の充実や、観点ごとの力を伸ばす学習過程を工夫した指導が生かされているものと考えられる。一方、数学では基礎基本の習得はもちろん、思考する学習を重視するなどの授業改善に取り組む必要がある。また、理科に興味や関心を高く持っている生徒が多い傾向がある。	
学校質問紙	○ 「一斉読書の時間を設けた」「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った」と答えた学校が多い。	

## 【滝川市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた学びの支援のため、退職人材活用事業や学びサポーターの配置など少人数指導体制を積極的に推進している。
- ◎ ティームティーチング指導や習熟度別指導を取り入れることにより、1人1人の生徒が抱えている学習課題の解消を図っている。
- ◎ 中学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の大切さなど、保護者の協力を得ながら一層の取組を行っている。